



昭和電工セラミックス株式会社

本レポートの内容に関する
お問い合わせは以下へお願いします。

本社・塩尻工場 総務部

〒399-6461
長野県塩尻市大字宗賀 1
Tel : 0263-52-0180
Fax : 0263-52-2995

富山工場 CSR グループ

〒931-8577
富山県富山市西宮町 3-1
Tel : 076-437-9201
Fax : 076-437-6600

横浜工場 CSR グループ

〒221-8517
神奈川県横浜市神奈川区恵比須町 8
Tel : 045-453-5111
Fax : 045-453-5004

ホームページは
こちらから



<https://www.sdk.co.jp/ceramics/>

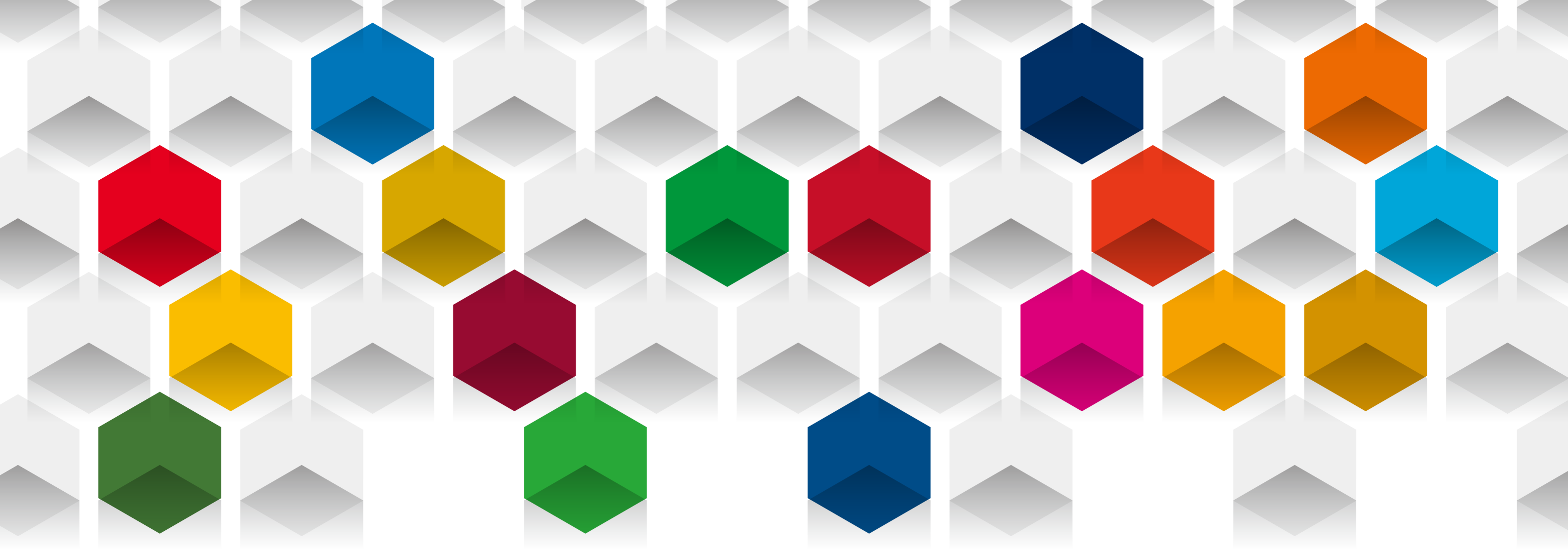


昭和電工セラミックス株式会社

CSR REPORT 2021



2021年6月発行



昭和電工グループ

昭和電工セラミックスが目指す 持続可能な未来。

経営理念

私たちは、社会的に有用かつ安全でお客様の期待に応える製品・サービスの提供により
企業価値を高め、株主にご満足いただくと共に、
国際社会の一員としての責任を果たし、その健全な発展に貢献します。



CONTENTS

01	経営理念
03	トップメッセージ 会社概要・沿革・編集方針
05	昭和電工セラミックスのCSR
07	昭和電工セラミックスのSDGs
09	特集 マンガでSDGs マンガで見る、 昭和電工セラミックスの取り組み
13	組織統治
15	人権
17	労働慣行
21	公正な事業慣行・消費者課題
23	環境
25	環境データ
27	コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展
29	2021年CSR行動計画
30	未来への取り組み

変化の先にある未来を よりよいものとするために

昨年の最も大きな出来事は、何と言っても新型コロナウイルスの感染症の拡大だと思います。幸いな事に、弊社では感染の発生を抑えることができ、安定した製品供給を続けています。このコロナとの付き合いは、ワクチン接種による効果が顕現するまで続くことになり、私たちの社会活動、企業活動においても大きな影響を受けています。また、この間に生活様式も変わって

きており、一部はコロナ禍の後も定着するような流れを伴っています。

大きな変化の一つは、リモートワークです。これまで、場所と時間を共有することが基本と考えてきましたが、リモート会議を多用するようになって、場所を共有する必要性が少なくなってきました。もちろん直接対面の必要性を否定しているわけではありませんが、これまでと違った習慣が定着し始めています。加えて、この変化をもたらした要因の一つが通信技術の発展である事も改めて認識しました。

このコロナ禍において、更にはアフター・コロナにおいてもますます通信の高速化、大容量化への要求は高まるものと予想されます。当社は、この分野の発展に必要な製品を製造しており、今後とも安定した供給をしていきたいと考えています。

当社は、昭和電工グループ企業であり、グループ全体のCSR方針である「事業を通じたSDGs(持続可能な開発目標)への貢献」を企業活動の基本と位置付けています。今後のニューノーマルにおいても必要とされる製品・サービスの提供により、社会の健全な発展・進化に貢献できる企業活動を継続していきます。本CSRレポートでは、普段なかなか目に留まることが無い当社製品を紹介しております。ステークホルダーの皆様には、当社の活動にご理解をいただくとともに、忌憚なきご意見やより一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

大久保卓也

CSR (Corporate Social Responsibility)

企業が事業活動において利益を追求するだけでなく、様々なステークホルダーとの関係を重視しながら果たす社会貢献のこと。その対象は環境、労働、安全、衛生、人権、雇用創出、品質など幅広い分野に拡大している。

編集方針

組織の社会的責任に関する国際規格、ISO26000に沿って構成した本レポートは、お客様、地域社会、取引先、従業員の皆様と私どもを結び、コミュニケーションを深めていただく事を目的に作成しました。素材メーカーである当社がどのように社会とつながっているか、CSR活動の取り組み事例を挙げながら出来る限りわかりやすく報告するように努めています。さらに特集では、当社が取り組んでいるCSR活動がどのようにSDGsと関係しているかをマンガで紹介しています。CSRレポートで当社に興味を持っていただいたのなら、ぜひ工場見学にお越しください。CSR活動に関する意見交換、情報交換を通して皆様との交流を深めたいと願っております。

CSRレポートの報告対象範囲

昭和電工セラミックス株式会社 塩尻工場・富山工場・横浜工場を対象としています。2020年1月～12月の情報に2021年の情報を付け加えています。環境データの一部は、2020年4月～2021年3月のものです。

会社概要

■ 昭和電工セラミックス株式会社
(昭和電工株式会社の100%子会社)

- 社 長 / 大久保 卓也
- 設 立 / 1985年11月
- 資 本 金 / 460百万円
- 従 業 員 / 387名(2020年12月末現在)
- 事業内容 / 研削材、耐火材、超高压製品、
ファインセラミックス成形体、
フィラー材、酸化チタン、
ガラス用鏡面研磨材の製造、販売

○拠 点

- 本社・塩尻工場
所在地 / 長野県塩尻市大字宗賀1
敷地面積 / 300,000m²
従業員数 / 177名(2020年12月末現在)
- 富山工場
所在地 / 富山県富山市西宮町3-1
敷地面積 / 210,000m²
従業員数 / 138名(2020年12月末現在)
- 横浜工場
所在地 / 神奈川県横浜市神奈川区恵比須町8
敷地面積 / 189,000m²
従業員数 / 72名(2020年12月末現在)

■ 昭和電工株式会社

- 社 長 / 森川 宏平
- 設 立 / 1939年6月
- 資 本 金 / 140,564百万円
- 従 業 員 / 連結 33,684 名
単独 3,515名(2020年12月末現在)
- 本社所在地 / 東京都港区芝大門1-13-9
- 事業内容 / 石油化学、化学品、エレクトロニクス、
無機、アルミニウム、その他

沿 革

- 1933年 10月 日満アルミニウム株式会社としてアルミニウムの製造を開始
- 1943年 10月 日満アルミニウム株式会社を昭和電工株式会社に吸収合併し昭和電工株式会社富山工場となる
- 1946年 10月 カーバイド、石灰窒素肥料の製造を開始
- 1959年 4月 高炭素フェロクロムの製造を開始
- 1969年 8月 高炭素フェロニッケルの製造を開始
- 1983年 1月 溶融シリカの製造を開始
- 1983年 11月 スポンジチタンの製造を開始
- 1987年 1月 球状アルミナの製造を開始
- 1988年 7月 高純度酸化チタンの製造を開始
- 1994年 3月 空気分離装置の受託生産を開始
- 2014年 1月 昭和電工セラミックス株式会社に商号を変更
- 2014年 10月 東北金属化学株式会社吸収合併によるSHOROX® 生産を移行
- 2015年 10月 横浜工場設立

昭和電工セラミックスのCSR

当社は昭和電工グループが掲げるCSR方針のもと、従業員一人ひとりがCSR活動を進めています。

特に工場の近隣地区の皆様や近隣企業との理解を深め合い、工場見学会の開催、意見交換、情報交換、地域行事への参加など積極的な取り組みを通して皆様と交流を図り、社会、地域の持続的発展に貢献していきます。

塩尻工場



富山工場



横浜工場

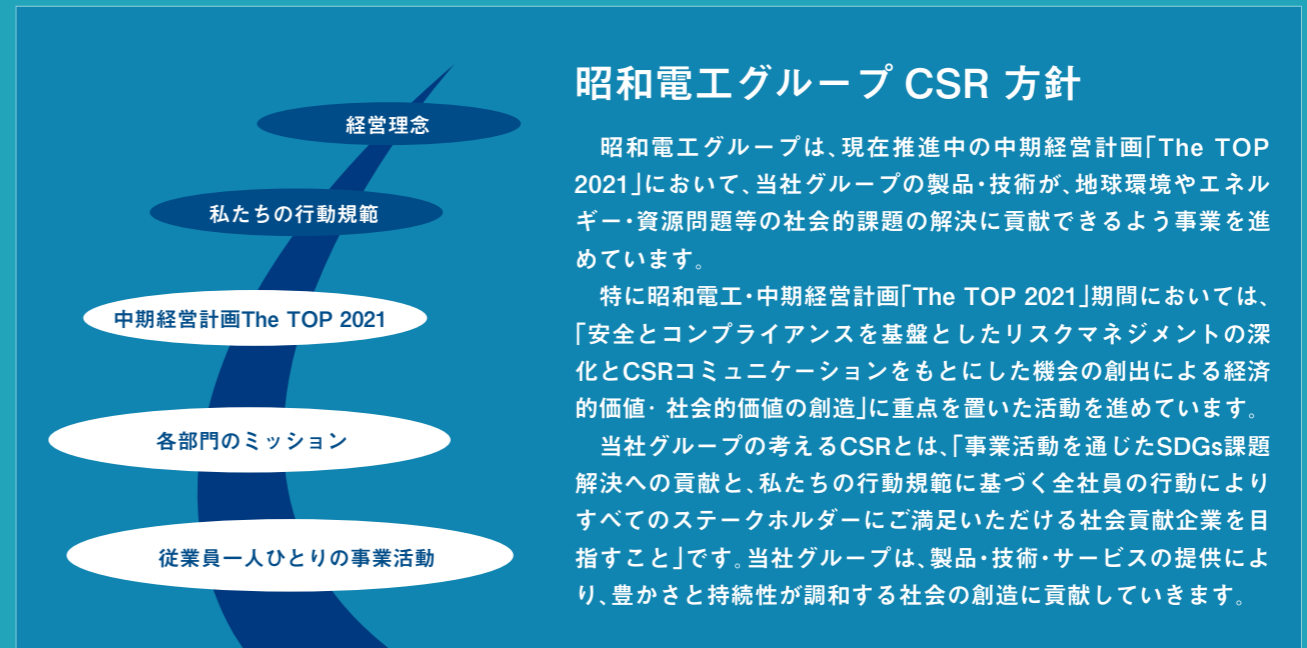


昭和電工グループ CSR 方針

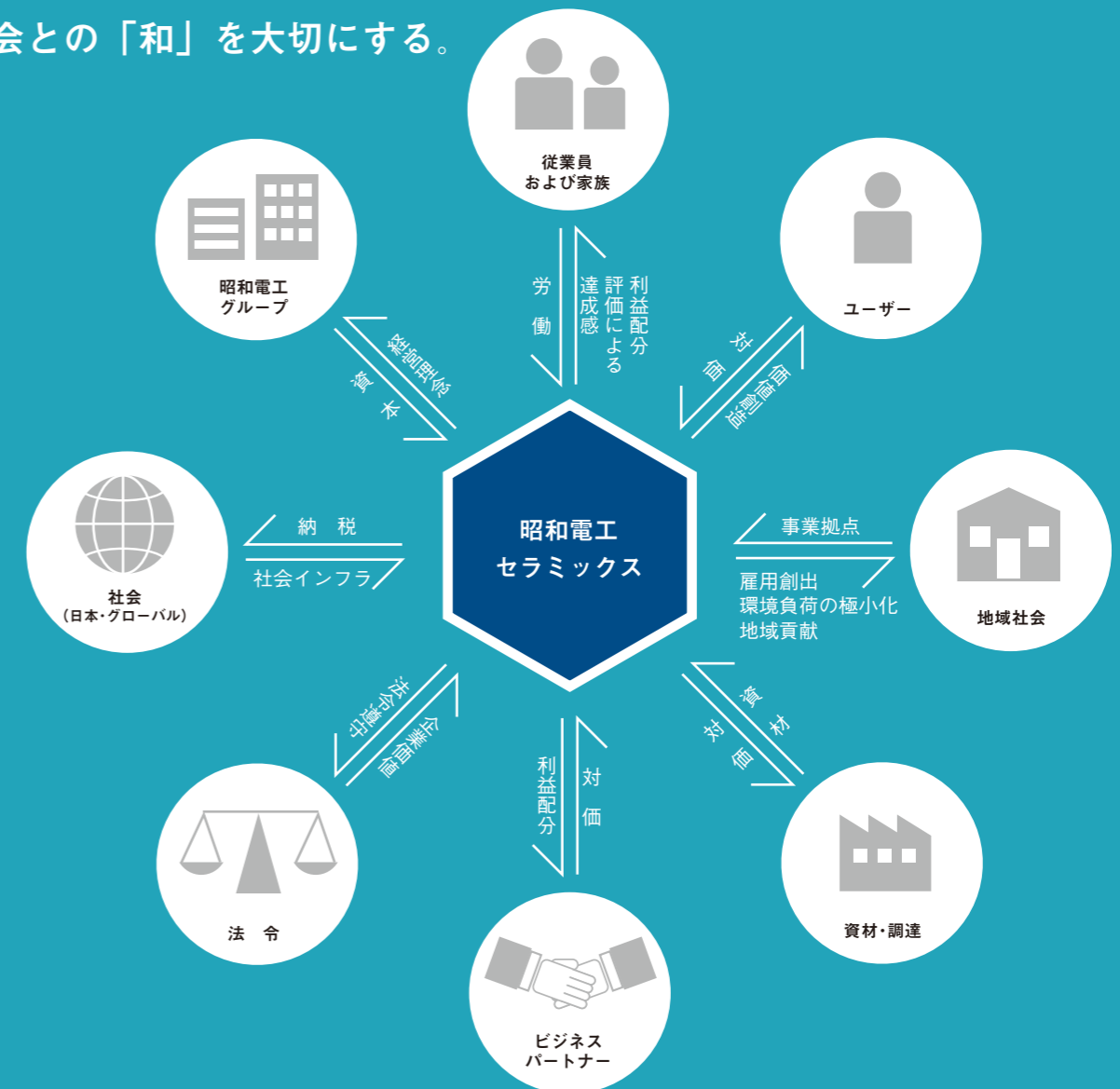
昭和電工グループは、現在推進中の中期経営計画「The TOP 2021」において、当社グループの製品・技術が、地球環境やエネルギー・資源問題等の社会的課題の解決に貢献できるよう事業を進めています。

特に昭和電工・中期経営計画「The TOP 2021」期間においては、「安全とコンプライアンスを基盤としたリスクマネジメントの深化とCSRコミュニケーションをもとにした機会の創出による経済的価値・社会的価値の創造」に重点を置いた活動を進めています。

当社グループの考えるCSRとは、「事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と、私たちの行動規範に基づく全社員の行動によりすべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指すこと」です。当社グループは、製品・技術・サービスの提供により、豊かさと持続性が調和する社会の創造に貢献していきます。



社会との「和」を大切にする。



昭和電工セラミックスのSDGs

私たちはSDGsがめざす持続可能な社会の実現に向け、

2030年までに達成すべきゴールを意識しながら、製品・技術・サービスを提供しています。

当社製品の多くは、直接皆様の目に触れる機会の少ないものですが、社会の発展、

皆様の暮らし・生活を便利にする様々な製品の素材・部材として使われています。

ここでは、社会生活や産業分野で使用されている当社製品を関連するSDGsの目標と共にご紹介します。

SDGs(持続可能な開発目標)達成への取り組み

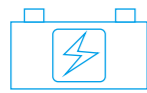
2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」で150を超える加盟国首脳に参加のもと、その成果として「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダで2030年までに達成すべき目標として掲げられたのが、17のゴールと169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」です。

SDGsは官民共通の目標として課題解決を求められていることが特徴です。昭和電工セラミックスは、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



暮らしに! /

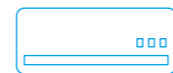


丸み状アルミナASシリーズ

家電・パソコンなどの電気機器や、電気自動車の電池などから発生する熱を逃がすため、樹脂やゴムの部材に添加されます。



暮らしに! /



アルナビーズ® CB

電化製品の放熱材として使用されています。複雑な電子機器の性能を維持するために欠かせない材料です。



暮らしに! /

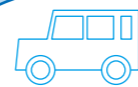


低ソーダアルミナALシリーズ

家電・パソコンなどの電気機器や、電気自動車の電池などから発生する熱を逃がすため、樹脂やゴムの部材に添加されます。



暮らしに! /



SBN K-TIP® (エスピーエヌKチップ)

自動車部品をはじめとする鉄系材料の研削・切削加工用素材として広く利用されている他、難研削材の加工にも使用されています。



産業に! /



SHOROX®

液晶パネルや、パソコンのハードディスクなど、高精度が要求される部材の最終鏡面研磨仕上材として使用されています。



産業に! /

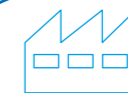


ショウビーエヌ® UHP

電子機器内部で、熱源(半導体チップなど)と放熱部材(金属製フィンなど)を接着する絶縁放熱樹脂シートへの充填剤に使われています。



産業に! /



ホワイトモランダム® WA

自動車や産業機械に使用される部品、部材などの研削・研磨のための研削砥石、切断砥石、研磨布紙(ベルト)などに使用されています。



産業に! /



スーパータイトニア® (酸化チタン)

複雑な電子機器の電圧変動を抑えるコンデンサの原料として、パソコンやスマホなどに使用されています。1台の中に、コンデンサは、数百から数千個も使われています。



マンガでSDGs

～マンガで見る、昭和電工セラミックスの取り組み～

その1 アルミ缶リサイクル活動の取り組み

私たちは、環境のために、従業員全員で、アルミ缶のリサイクル活動してるんだ。

アルミ缶専用の回収BOXを設けて、年間60,000缶も回収してるのよ。
収益金は地域の小中学校に必要な備品として寄贈してるんだよね。

アルミ缶回収を促進するため、作業服柄の自販機もあるんだ。

ほらっ！
え？ロボットだったのー？
お姉さんもー？
詳しくは、28ページへ

その2 工場見学会、出前授業の取り組み

工場では近隣の小中学校で、地域学習や働くことについて学ぶことにも協力してるんだ。

中学生には定期的に「職場体験」をもらったり、社員が学校を訪問する「出前授業」では「社会人とは何か」をお話してるんだ。

工場見学会に訪れる小学生には大きな重機への体験乗車が大人気なのよ。

いや、それは違うだろ。
わーい
詳しくは、27ページへ

登場人物紹介！



ショウ(昭)さん

工場に勤務する男性従業員。愛される工場を目指すべく日々、社内外の関係者と良好な関係作りに奮闘中。行動力では誰にも負けたくないと意気込む。休日もアグレッシブに行動するタイプ。



デン(電)くん

工場の近所に住む小学生。以前、工場見学に来てから昭和電工セラミックスの取り組みに個人的に興味を持ち、再び訪れた。



セラさん

工場に勤務する女性従業員。フットワークの軽さはお墨付き。笑顔と話術で工場見学に訪れた方を次々に虜にしている。食事の際に気をつけていることは野菜から食べること。

その3 環境の取り組み

工場では、行政の水質規制値(COD 60mg/ℓ)より厳しい自主基準値(COD 20mg/ℓ)を設けて、環境維持に取り組んでいるんだ。

365日毎日監視モニターで水質をチェック!

回収した雨水は、排水処理設備で処理した後に海に排出しているのよ。
なんと! ドーム4個分の工場の敷地に降る雨をすべて回収してるんだ!

キレイだからって泳いじゃダメ!
詳しくは、25ページへ

その4 健康経営の取り組み

「健康保持・増進プラン2021」として健康増進活動に取り組んでいるんだ。

従業員を対象としたエクササイズ講習会を開催して、普段は全く運動していない従業員も楽しく運動してるのよ。リピート率も高いのよ。

健康経営認証制度のクラスAAAに認証されるように、従業員が健康課題の検討メンバーになってがんばってるんだ。

そして! 健康経営認証マークを狙ってるんだ!
詳しくは、28ページへ



その5 住み続けられるまちづくり

工場周辺は歴史ある港町だから工場の「ショールーム化」を目指した美化運動を行い、街並みとの調和を図っているんだ。

いつまでも住み続けるまちづくりのために工場では、廃棄物を100%リサイクルしているの。

廃棄物の分別の徹底によって、製品原料として売却した収益はすべて日本赤十字社へ寄付されているの。

地域医療の発展にも貢献してるんだね。

コスプレかい!

詳しくは、28ページへ

その6 ものを大切にする

工場のシンボリック存在の事務棟本館建屋は昭和12年に建てられたんだ。今でも大切に使われているんだ。

84歳? おじちゃんと同じ年だ!

洋館がモチーフで当時の先進的なデザインなのよ。緻密に模写したデザイン画を寄贈いただいたり、地域の人にも愛されているの。

モノを大切にすることが環境のため、未来のためもあるんだよなあ。

詳しくは、24ページへ

その7 電力・エネルギー環境

もともと各地の工場には独自の発電施設があったんだ。

工場を動かすために安定したたくさんの電力が必要だったからなのよ。

今では、最も大きな電力を使用する設備は、家庭での電力消費が少ない深夜帯に稼働させ、地域の電力安定供給に貢献してるんだ。

地域の暮らしとも共生することがサステナブルってことなんだねえ。

ホントにわかってるのかな?

詳しくは、26ページへ

その8 皆が安心して働けるために

以前、当社の採用者を対象とした雇用を守る組織がなかったんだ。

2016年10月に当社の採用者のみを対象とする組合を立上げ、現在では発足時の3倍に迫る総勢160名を超える組織となったのよ。

労働条件の改善や雇用の安定、働きやすさ、福利厚生を充実させるための各種施策や活動を行っているんだ。

また、年末カンパで集められた基金を地域の養護施設へ寄付し、幸せのおすそ分けをしているのよ。

詳しくは、16ページへ

ISO26000の中核課題

組織統治



法令を遵守することはもとより、高い倫理観を持って行動します。

- 担当業務に関する法令・協定・会社の規程・規則や正しい手続きの仕方およびそれらの変化を理解し、遵守します。
- 国内外の法令を遵守し、世界人権宣言や様々な国連条約を尊重し行動します。
- ルール化されていないことであっても、誠実な言動を心がけ、社会の一員としてステークホルダーから信頼されるように行動します。

私たちの行動規範／コンプライアンス

昭和電工グループの考えるCSRとは、「事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と、私たちの行動規範に基づく全社員の行動によりすべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指すこと」です。

当社では、私たちの行動規範に掲げる9項目に則り、私

たち一人ひとりがステークホルダーに対して何をすべきかを考え、行動しなければならないことを挙げて、各部署でディスカッションを行っています。

昭和電工グループの一員としての責任を果たし、国際社会の持続的発展に貢献していきます。



取締役会

取締役会は、当社の基本方針を決定するとともに会社法および定款で定められた事項および重要な業務執行案件について、審議を経たうえで決定し、経営の意思決定機能の迅速化と活性化を図っています。計画的に取締役会、定時株主総会、監査役監査を実施しています。

2020年実績

取締役会／年8回(書面決議含む)
1月6日、3月6日、3月17日、6月15日、
7月10日、9月17日、10月21日、12月21日

定時株主総会／3月17日

監査役監査

昭和電工グループ監査役による監査を毎年実施しています。工場概況、生産概況、技術・開発課題の進捗等、現地実査を通じて、経営の健全性確保のための提言、助言、指導を受けています。また当社監査役による監査では、監査役が取締役会その他重要な会議に参加し職務の執行状況を確認したり、重要な決裁書類や業務及び財産の状況を現地に調査しています。

内部監査

当社が発足した2015年を機に、監査員の技能向上と他工場の生産品や業務を学び自職場に生かすことを目的に、3工場で共通テーマに則った内部監査を実施し、情報の共有とシナジー効果による活動の促進を行っています。

年度ごと事前に、監査事務局が各工場で抱える課題や問題点を持ち寄って協議し、その中からテーマを選出します。同じ視点から様々な監査員による監査を実施することで特徴ある取り組みや考え方、そして新たな課題を発見する機会として活用されています。第三者機関による外部監査と異なり、自由な視点で、監査員に任命された面々が専門業務とは異なる部門の監査を行うことで、品質・環境・安全の取り組みへの理解が一層深まると共に部署間の相互理解によるコミュニケーション活性化にも一役買っています。毎年対象となる部門と監査員をローテーションすることにより、多くの学びと交流の場を提供しています。

遵守評価

法規制に則り適正な管理並びに対策実施が取られているか、毎年全部署でコンプライアンスチェックリストを活用して確認しています。

リストは、環境・安全・化学物質に係る法令をカバーした約500の設問からなり、継続してチェックを行うことで進捗の度合いや新たな法規制への対応、これらに係る社内体系の整備や規程類等の文書整備を行うことができます。

近年は、化学物質に関する規制が厳しくなり事業者に課せられる責任も益々大きくなってきていますが、このリストを活用することで漏れの無いチェックを行うことができます。

人権



人権を尊重し、個性の尊重、自由な発想、建設的な議論により、新たな価値を創造します。

- 一人ひとりが社内外で差別行為をしないことに加え、国際社会に存在する民族差別、階級差別、児童労働、強制労働、貧困問題などの人権問題の解決に向けて、サプライチェーンに働きかけるなど、人権尊重に積極的に取り組みます。
- 多様な人材が互いにその個性を尊重し、前例にとらわれず自由に発想し、建設的に議論することで、新たな価値を生む風土を目指します。

人権教育

昭和電工グループが経営理念に掲げる「社会的有用かつ安全でお客様の期待に応える製品・サービスの提供」を実現するため、従業員一人ひとりがお互いの立場を尊重し働きやすい職場づくりを目指し人権意識の向上に取り組んでいます。

当社では、ジェンダー平等や差別・不平等といった人権について考える機会が増えてきました。

巷にあふれる様々な情報や意見、個々の権利をどのように解釈し、対応策や妥協点を見いだしたら良いのか、ショートケースを用いて解決の糸口を学ぶ機会を設けています。身近で起こりうるケースを題材に、職場単位でディスカッションを行い、様々な意見や考え方を学ぶことによりコミュニケーションの重要性を再認識すると共に人権への理解を深め、自発的な行動を促すきっかけとしています。



昭和電工グループ京浜地区 人権教育研修会

改善提案制度・ヒヤリハット

効率よく、安全で働きやすい職場を目指し、30年以上前から改善提案・ヒヤリハット事例の共有制度を推進しています。改善提案は安全・安定運転、絶対品質、コストダウン等を意識して行われ、日常業務の中で改善活動を続けています。ヒヤリハット事例の報告は自分が「ヒヤッとしたりハットした体験」を広く周知することで、似たような災害を未然に防止するのに役立ちます。各工場では毎年、最多改善提案提出者の表彰を行っています。

2020年実績

- 8月 テーマ「誹謗中傷とSNS」
- 12月 テーマ「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)」

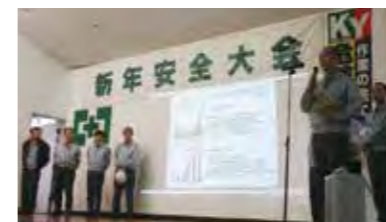
5S活動への取り組み

働きやすい安全な職場づくりを目指し、全部門で5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)に取り組んでいます。部署ごとに選任された推進員を先頭に、設定した目標を目につく場所へ掲示し自発的な取り組みを促しています。工場長をはじめとしたトップが率先して定期パトロールを行い、指摘・改善することにより理想とする職場づくりに取り組んでいます。

安全の取り組み

■ 安全教育

安全・安定操業の実現に向けて、従業員、協力企業責任者を対象に場内安全ルールや環境教育・製品教育・粉じん教育・酸欠防止教育・化学物質に関する教育を実施しています。なかでも化学物質の取扱量が多い当社では、特定の化学物質を題材にした教育を開催し、特性や取り扱いの注意点、被液または漏洩した場合の対処方法を共有しています。



横浜工場 新年安全大会

■ 危険体感教育

職場に存在する危険(危ない作業、守りづらいルール)を具体的に示し、身近な危険を肌で感じてもらうために、従業員を対象に危険体感教育を実施しています。危険体感教育で「危険とは何か?」「ルールを守るとはどういうことか」を再確認し、危ない作業、守りづらいルールを洗い出し、作業しやすい環境づくりに努めています。

■ 場内安全パトロール

法定パトロールの他、自主的なパトロールを実施しています。パトロールでは工場内で定められた規則の遵守状況の確認や不安全な状態で放置されたものがないかなど、様々な視点でチェックをしています。対策・改善を求めるだけでなく、作業員の安全意識の向上はもちろんのこと、積極的に声かけをしながら健康状態の確認にもつなげています。

■ 保護具講習会

保護具メーカーから講師を招き、職業性疾病の最新情報やその対策としての保護具の選定方法を学びます。

日頃から使用している保護具の機能や点検方法と正しい着用方法を共有化することができます。

労働組合との対話

昭和電工セラミックス労働組合と労使会議等を通じ、組合員の抱える課題の迅速な協議・対策および課題共有化のため意見交換を重ね、労使協業をもとに経営方針の浸透を図っています。組合員の意見を経営に反映させ、働き甲斐のある職場づくりのため各種活動を推進していきます。

■ フォークリフト安全教育

外部講師を招き、フォークリフトの「死角」や、操作における注意点、フォークリフトの特徴や事故事例について教育を実施しています。実習では実際にフォークリフト後方に死角を作り、乗り降りの手順から操作について注意すべき点を確認しました。さらにフォーク爪先の水平感知機能や、持ち上げた重量の計測機能、点検・整備など専門的な視点から解説を受けています。



富山工場 フォークリフト安全教育

■ 熱中症教育

夏場は炎天下ばかりではなく、室内の作業でも脱水症状となる例があります。そこで、地域別、年代別の熱中症の発生傾向や発生時期など種々の統計資料をもとに、各工場で産業医や外部講師による教育を実施しています。

熱中症の症状やその対策に始まり、睡眠や規則正しい食生活など日頃の体調管理にまでテーマを広げ、災害の未然防止に努めています。

■ 安全審査

設備の新設、増設、改造、廃止等の工事並びに試運転を実施する際に、事前にその計画の安全性を審査します。また、環境並びに製品品質への影響を評価する手順を定め、課題を明確にし社内・外部に対する安全性を高めることを目的としています。



労働慣行



改善活動

SDK-S活動(塩尻工場)

SDK-S活動とは塩尻工場で推進している全員の力を結集し工場目標を達成する活動です。

各課・グループの課題の中で、重要なテーマはチームをつくり、メンバーで知恵を出し合いながら取り組みを進めています。

年2回の発表会、年3回の報告会・テーマリーダー会では毎回活発な議論が行われます。



塩尻工場 SDK-S活動発表会

きときと活動(富山工場)

以前より取組を進めていた全社生産革新活動であるTPM活動を刷新し活動を促進させるため、2017年名称を社内公募し富山弁で“新鮮な”を意味する“きときと”を採用、適宜に課題意識も新鮮なうちに処置しようとの考えのもと再始動しました。きときと活動は、生産の効率を阻害するあらゆるロス・ムダの徹底的な排除により、災害ゼロ・故障ゼロを目指し、生産効率を極限まで高めていくことを目標に、新人・ベテラン問わず一年間かけて課題に取り組みます。

この活動は、製造・開発・設備・品質・スタッフ部門など全ての部門を対象に日常業務の中で感じる“こんな仕組みや取り組みがあったらいいな”を題材に工夫を凝らし

て改善を重ね、その成果を発表します。発表資料は活動板に掲示したり作業ノウハウを纏めたワンポイントレッスンシートなどにして技術継承や情報の共有に努めています。

OASIS活動(横浜工場)

横浜工場で行っているOASIS活動は2019年の取り組みが認められ、昭和電工グループ・ダイバーシティCEO表彰で「優秀賞」を獲得しました。所属、世代、性別などバラバラのチームを編成し、場内美化、KYトレーニング、座談会に取り組んだ結果、工場全体の安全意識が向上し、工場内が綺麗になり、コミュニケーションの活性化につながります。

今後もOASIS活動に継続的に取り組むことで、従業員一人ひとりの意欲向上を図り、自主的な活動を展開していきます。



横浜工場 OASIS活動「巻き込まれリスク検証中」

IT、IoT活用促進

データベースによる情報管理や各種用途に見合ったシステム構築などITを活用した体制の強化を図ると共に、コロナ禍で急速に普及したリモート業務においても、十分な情報共有や意思疎通が行えるよう、会議の進め方や資料の見せ方にも工夫を凝らし効率化を図っています。



塩尻工場で使用しているWorkplace

コロナ対策

行政からの通達や指導に従い、これまでのパンデミック指針を大幅に見直し、昭和電工グループは、本社直轄の一元管理による指導と対策、定期報告を実施しています。緊急を除いた出張や外部活動の自粛、消毒・検温を基準とした厳しい自主管理を徹底しています。社内では共有スペースの利用に人数制限を設けるほか、飛沫拡散防止のためのパーティション設置、産業医指導による居室の除菌・湿度管理を行い、ウイルスを外部から持ち込まない・持ち込ませない努力をしています。



富山工場 アクリル板設置



塩尻工場 検温付アルコール消毒装置



BCP(事業継続計画)の取り組み

自然災害や発災を起点とした緊急時に備え、企業の社会的責任として事業を停滞させないための取り組みと仕組みづくりを進めています。ここ数年は異常気象による大雨や大雪、洪水など企業の生産活動にも大きな打撃を与えかねない未曾有の災害が頻発しており、想定外の範囲も都度見直しを余儀なくされています。計画的な設備対策や手順書の見直しを行っています。

また、対策本部を中心に工場間で有事を想定し衛星電話やトランシーバーを駆使した情報集約と伝達の合同訓練を行い、より対策の精度を上げると共に、課題の掘り起こしを行っています。



横浜工場 BCP訓練の様子

安全対策検討プロジェクト

塩尻工場で2019年に発生した災害を受け、再発防止に向けた取り組みとして、工場設備の安全対策推進と技術者育成を目的とするプロジェクトチームを結成しました。リーダーを中心に迅速かつ円滑に計画立案及び提案、進捗管理を遂行できる体制を目指し、「安全対策、生産技術に関するプロジェクト」を発足させ、安全・安定操業基盤の確立に努めています。

2020年は「挟まれ・巻き込まれリスク抽出」及び「埋もれたリスク抽出」を推進した結果、1,788件の危険点を抽出しました。現在、全件を詳細に確認しながらNHK(無くす、減らす、変える)の観点で設備安全対策を検討しています。



塩尻工場 転倒災害対策(滑り止め塗装)

労働慣行



社員一人ひとりの労働意欲を高め、
誰もが働きやすい職場づくりを推進します。

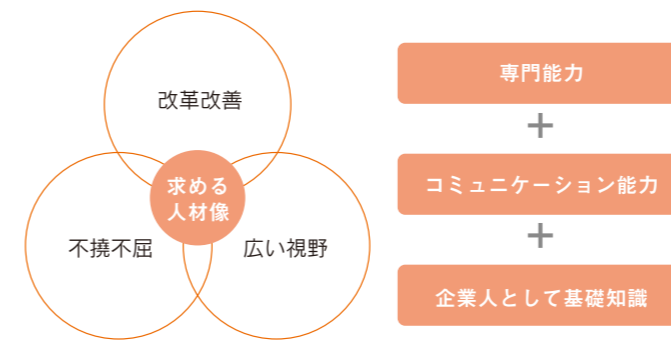


- 人材育成方針を明確にして社員の能力を開発し、働きがいを持てる職場環境を整備します。
- 社員が安心して働けるよう、安全かつ健康に配慮した職場環境を構築するための取り組みを徹底します。

人材育成の取り組み

求める人材像を明確にし、その教育のための教育体系を順次見直しています。図に示す様々な視点からみた施策を講じることで、能力開発に意欲的な企業風土をつくっています。

- 1 職務に必要な知識を得るための階層別研修の充実
- 2 将来を担う社員の育成を目的とした選抜研修の実施
- 3 知識の幅を広げるための教育資料の定期配信



富山工場 先輩社員によるOJTの様子

緊急事態への対応

■ 普通救命講習会

訓練用のマネキンを用い被災者の意識確認、救護応援の要請、心肺蘇生・気道確保、AED(自動体外式除細動器)の活用に至る一連の訓練をそれぞれ行っています。参加者は座学だけでなく、被災者に見立てたマネキンを使って訓練することで、施術の強さ加減をはじめ、より実践的な対応方法を身に付けることができます。

■ 緊急時処置訓練

塩尻工場では、電炉の異常事態を想定した訓練を実施し、非常時の初動や建物からの退避、近接する職場で働く従業員の避難経路や集合場所を確認しています。

富山工場では、作業車からオイルが漏れ排水溝へ流れ込んだケースを想定し、発見通報から始まり、流出防止のため排水溝への土嚢投入や堰板挿入、油の吸着・中和処理の訓練を実施しています。

横浜工場では毎月1回、緊急時処置訓練を実施しています。薬品が排水溝に流出したという想定で異常の発見から始まり、その対応方法について緊急時処置マニュアルをもとに管理室と現地設備で相互に確認をしています。



塩尻工場 電炉異常時訓練の様子

■ 備蓄管理

企業防災の要素の一つである「生命の安全確保」の一環として、防災備蓄用品を備えて管理をしています。地震や津波、風水害などの緊急事態に備えて、被害を防止、または最小限に止めるための行動や避難場所を定めています。帰宅困難者への物資として、水・食糧・その他非常用物資を備蓄しています。

また、災害時に無償で飲料が取り出せる災害救援自動販売機や津波に備えて耐震補強された事務所・建屋を整備しています。



横浜工場 備蓄管理 防災備品倉庫内

■ 消防設備点検

工場内にある全ての消火器、火災報知機、消火設備の点検を毎年実施しています。点検では1本ずつ圧力、外観、機能をチェックしています。2022年より使用禁止となる旧型消火器は計画的に更新しています。

■ 防災訓練

各工場では災害発生を想定した防災訓練を実施しています。発災時に、各自が緊急組織体制下で迅速かつ適切な処置が取れるように訓練をしています。横浜工場ではガス漏れを想定した訓練をしています。外に出られないという特殊な状況の中で、対策本部では情報伝達の方法がメールや電話に限られるなど、地震や火事などの災害とは一味違った訓練をしています。

公正な事業慣行



公正かつ自由な競争を基本とした取引を行います。

- 独占禁止法を遵守し、公正な取引を行います。
- 各国の競争法を遵守し、公正な取引を行います。
- カルテルに参加しません。また、それを疑われるような行動をとりません。



消費者課題



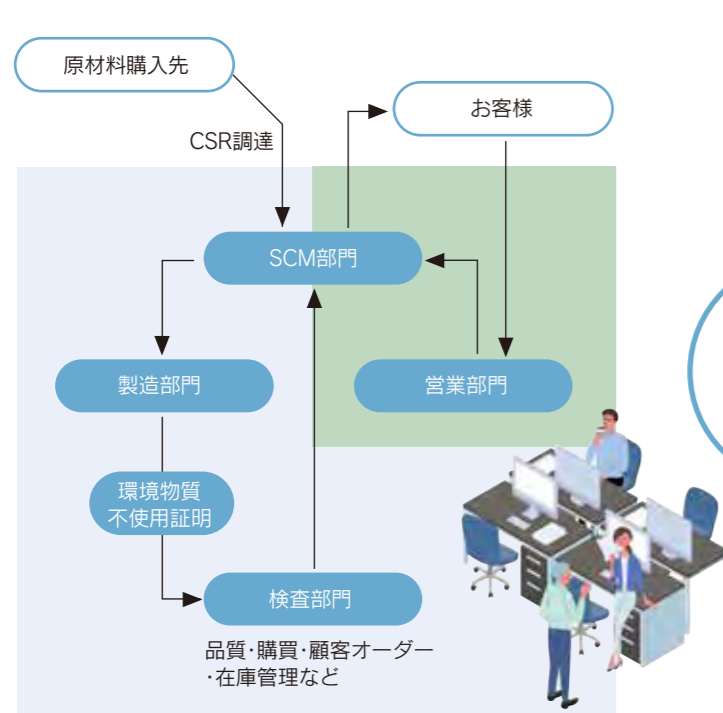
ビジネスパートナーと協働して、お客様の期待に応える製品を安定的に供給します。

- 製品・サービス、およびパンフレット・カタログ等にわかりやすく正確な表示をします。
- お客様に当社の製品を推奨・説明する際には、事実を正確に伝えます。
- 購入先を選定する際には、門戸を広く開放し、公平に比較して決定します。
- 発展途上国と取引を行う際は、その経済的自立を阻害することのないよう、適正な価格による継続的な取引を心がけます。



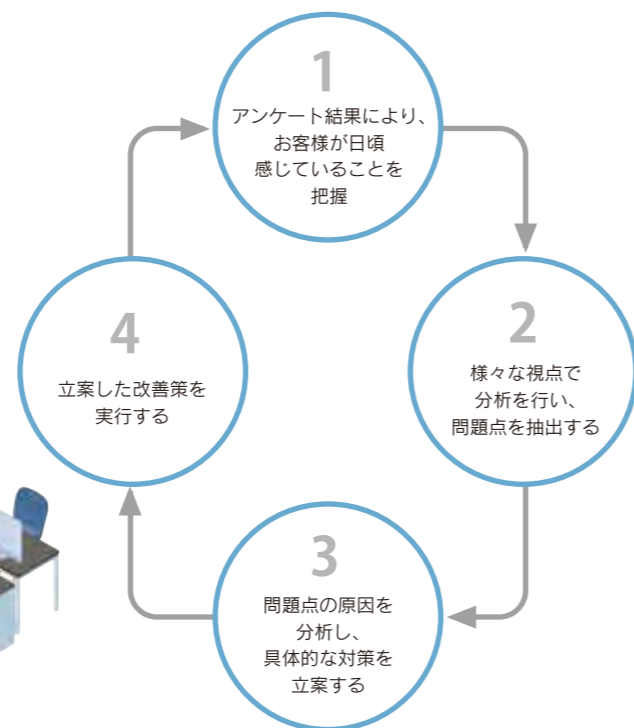
CSR調達

CSR調達は、「昭和電工グループCSR調達ガイドライン」をパートナーの皆様と対話を通して共有し、信頼関係をさらに強固なものとすると共に、協働で遵守することで、お互いの企業価値を向上させることを目指すものです。



顧客満足度調査(CS調査)

当社では年1回、製品の消費者であるお客様(企業)にアンケートを実施し、製品、品質、開発、改良、納期、包装、配送、サービス、価格等に対する満足度を調査しています。



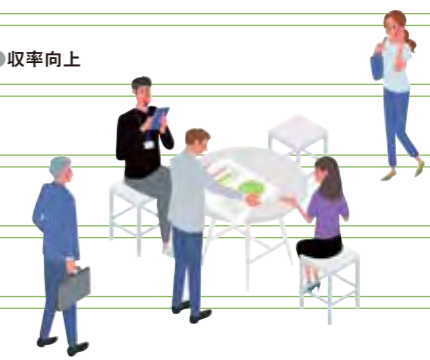
マネジメントシステムの取得

当社では、国際規格の ISO9001、ISO14001、ISO45001 を取得し、工場内で規定した要領に従い生産活動を行っています。

品質保証体制

当社は、実用性および安全性に配慮した製品・サービスをお客様に提供するため、法令・規制要求事項を満たした製品、さらにはお客様にご満足いただける製品を提供できる仕組みを継続的に改善しています。

顧客満足を得るための品質保証体制	品質保証活動	●方針展開 ●マネージャーボード ●マネージメントレビュー ●内部監査
	一定水準の品質(性能等)の確保	●品質マニュアル ●製品検査項目 ●製品検査方法
	生産効率の向上、コスト削減	●多能化 ●ロス削減 ●収率向上
	新技術の普及	●新製品開発
	多能化の制御(最適化・単純化)	●マニュアル ●自動化
	互換性・インターフェースの整合性の確保	●SAP システム
	正確な情報伝達(相互理解の促進)	●セールスフォース
	お客様の品質を守る	●お客様対応 ●製品リスク評価 ●工程異常報告
	従業員に配慮した規制づくり	●作業環境測定 ●危険度・影響度評価
	環境負荷物質(使用)の管理	●環境物質不使用証明書決裁システム



環境



レスポンシブル・ケアを推進します。

- レスポンシブル・ケアは化学物質を取り扱う企業が自主的に環境・安全・健康に取り組む活動のことです。当社グループのCSR活動の根幹にはレスポンシブル・ケアがあり、その実践を通じて、社会から信頼・評価される企業を目指します。



廃棄物削減の取り組み

昭和電工グループは、全社を挙げ廃棄物発生量の抑制および、ゼロエミッション※の達成を目標に掲げ、外部委託業者の協力を得て3R (Reduce・Reuse・Recycle) への取り組みを進めています。

また当社では、担当者が毎年委託先へ出向き、中間処理・最終処分状況を査察し廃棄物が適正に処理・処分されていることを確認しています。

※ゼロエミッションとは：排出される廃棄物をいかに処理するかではなく、それを再利用しあらゆる廃棄物量をゼロにすることを社会全体で目指すグローバルな取り組み。資源とエネルギーをできる限り有効に使用し、環境への排出をゼロに近づけ資源循環型の社会を目指すもので、国連大学が1994年に提唱した。昭和電工グループでは「最終埋立処分量が廃棄物発生量の0.5%以下」と定義している。

エコ事業所認定

2010年に富山県では、県内廃棄物の減量化、リサイクル推進を目的に「富山県リサイクル認定制度」が制定され、廃棄物を利用したリサイクル製品や廃棄物の減量化・リサイクルなどに積極的に取り組んでいる事業所の認定が開始されました。

認定の範囲は、リサイクル製品、資源回収拠点のエコス

テーション、エコ事業所の3分野にわたり、富山工場はゼロエミッションの達成やアルミ缶・エコキャップの回収・寄付およびLED照明の採用等の取り組みが評価され、2013年に県内6社目のエコ事業所に認定されました。認定された事業所は、県情報誌やHPに掲載され、広く内外へその取り組みが紹介されています。

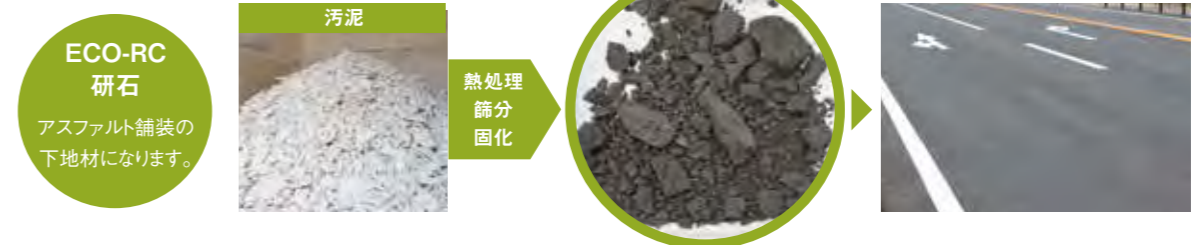
リサイクル実例

異なった材質が一体化した複合製品や、新素材・リサイクル品を多用した廃棄物は分別リサイクルが難しく、またリサイクル業者を取り巻く環境も今や国内ばかりでなく世界規模で厳しくなり、排出者に求め

られる責任も年を追うごとに増えています。工場から排出される廃棄物は、場内での分別徹底を経て外部業者の技術協力により、そのほとんどがリサイクル品として広く利用されています。

ECO-RC砕石

自動車や大型のトラックが通行しても十分に支えられる強度を保つために、アスファルト下のしっかりとした層を作るための路盤材として利用されています。



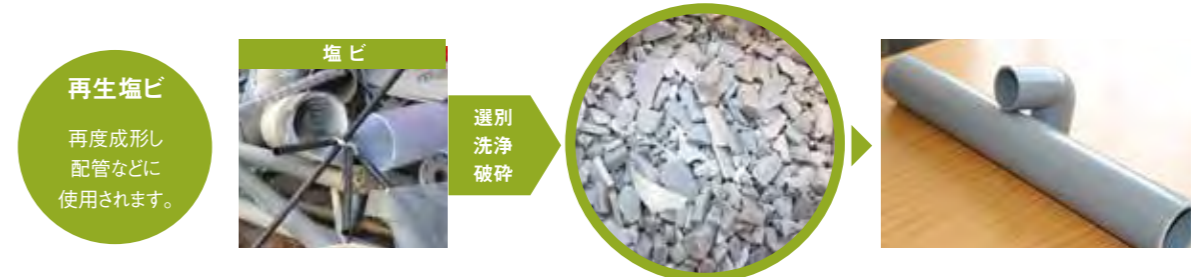
再生プラ

金属片や異なる材質を含む成形品から異物を取り除き、フィルム状の軟質プラ・外装材や容器などに使われている硬質プラ・その他に分類。その後粉碎され、再生プラスチック原料に生まれ変わります。



再生塩ビ

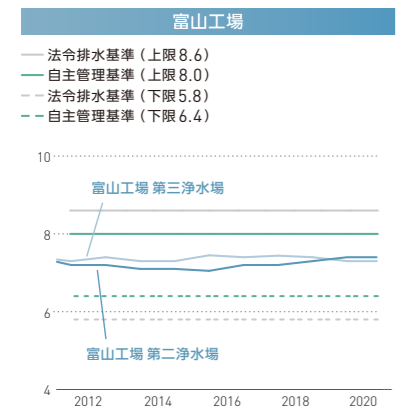
場内設備から外された塩ビ配管には機器類や金属ボルト、芯材を含んだフランジが取りられているため、これらを取り除いた後に細断され再生塩ビ原料に生まれ変わります。成形されたものは再度塩ビ配管として利用されます。



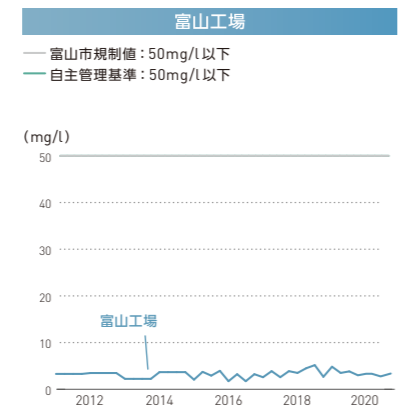
環境データ

水質データ 水質汚濁防止法による排出基準や地域との協定に基づく規制値を遵守しています。各工場では、地域との協定に基づく規制値より厳しい自主管理基準を設けています。環境維持のために、pH・SS・BOD・CODの常時監視を行い、排水監視の強化に努めています。(製品や立地により管理する項目が異なります)

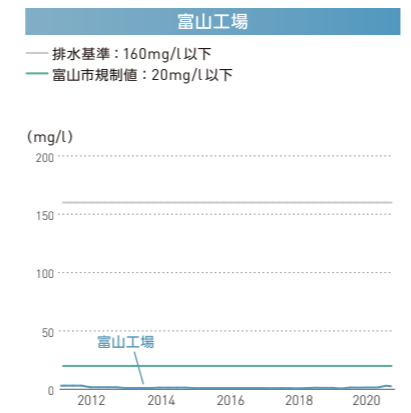
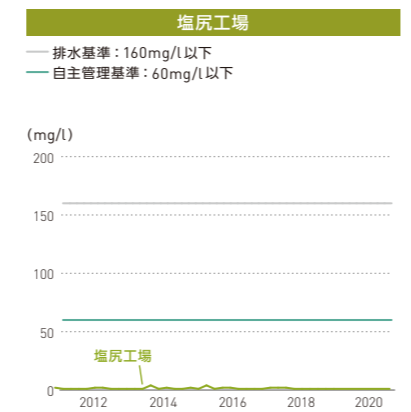
pH **水素イオン濃度指数**
物質の酸性・アルカリ性の度合いを示す物理量pH1~14の範囲で示される。pH7を中性としより小さい値は酸性、大きければアルカリ性を示す。



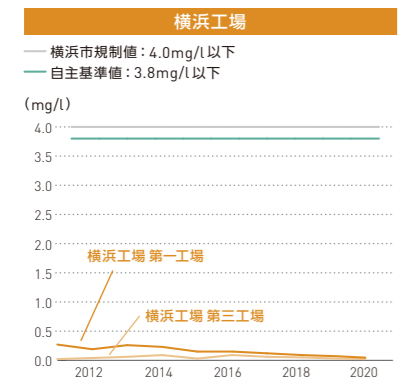
SS **水中に浮遊している物質**
水中に懸濁している直径2mm以下の不溶性物質のこと。



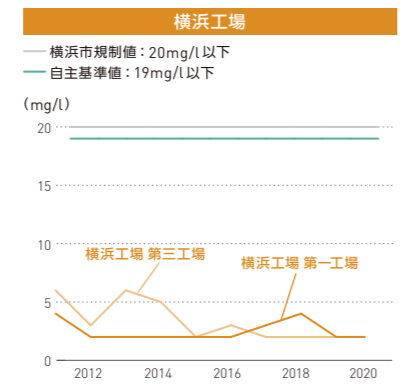
BOD **生物化学的酸素要求量**
有機物指標微生物によって分解される際に消費される酸素量。数値が大きいかほど水中の有機物が多く汚染が著しい。



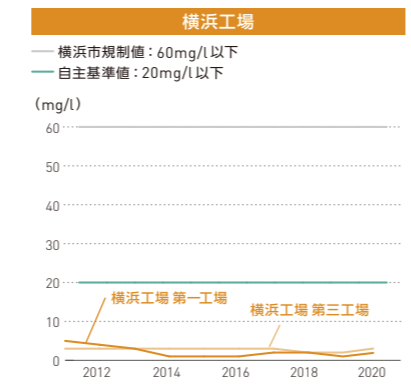
T-P **全リン**
リン化合物は窒素化合物と同様に、動植物の成長に欠かせない元素であるが、水中の濃度が高くなると水域の富栄養化を招くことになる。



T-N **全窒素**
窒素は水域の富栄養化の原因の一つであることから、栄養化のおそれのある湖沼、海域について環境基準(全窒素)、排水基準(窒素含有量)が設定されている。

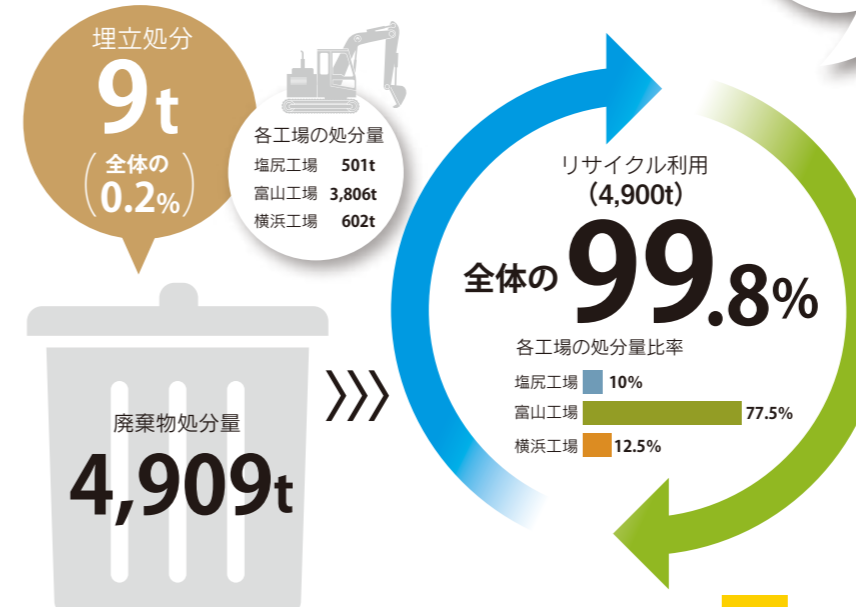
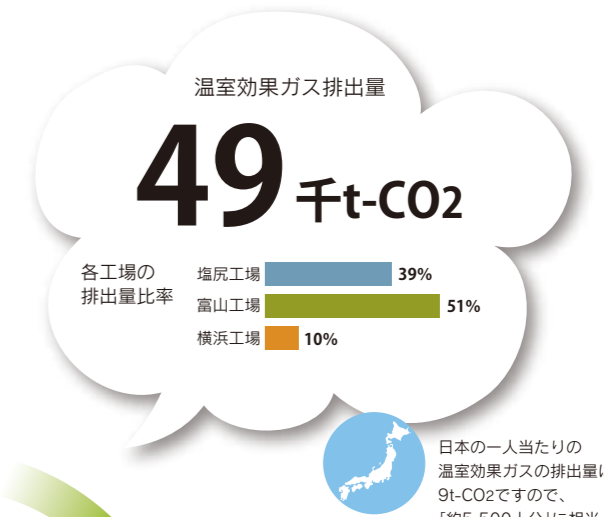


COD **化学的酸素要求量**
水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、海水や湖沼水質の有機物による汚濁状況を測る代表的な指標。



温室効果ガス(GHG)

地球温暖化防止および資源保護の観点から温室効果ガス排出量の削減に努めています。環境方針の項目に省エネルギーを重要課題として位置づけ、生産工程の見直し、運転最適化などによる省エネルギーを推進しています。温室効果ガスは燃料使用量と、他社から供給された電気・熱の使用量から算出された排出量に排出係数を掛けて算出されます。排出量は生産量の増減により変動します。



廃棄物処分量
各工場では廃棄物の発生量を抑えると共に、発生した資源のリサイクル利用を推進しています。また、資源ごみと一般ごみの分別を徹底し廃棄物量の削減に取り組んでいます。

エネルギー使用量

効率の良いトッランナー機器やデマンド設備を採用し、燃料消費をコントロールしています。また、民間需要の少ない夜間・深夜帯の電力を利用し、地域の電力安定供給に貢献。コスト削減にも努めています。



発電設備の紹介 工場を稼働させていくうえで電力は重要ですが、限りあるエネルギーを有効活用するため、再生可能エネルギーの利用にいち早く着目し活用を進めています。

[塩尻工場]
信濃川水系上流の梓川の水力を利用し、戦後1950年(昭和25年)に赤松発電所の運用を開始。自社工場の電力供給だけでなく、地域の水利事業においても広く利用されています。年間発電量は一般家庭5,460世帯の年間使用量に相当します。また2013年からは、敷地内に東京ドームの半分ほどの面積のメガソーラー発電設備を誘致し、年間180,000kWhの発電量を得ると共に、年間844tのCO2の削減にも大きく貢献しています。

塩尻工場 赤松発電所

[富山工場]
多くの電力を必要とする電解電炉を用いた製造を主体としていた富山工場は、1954年(昭和29年)に電力会社を主体に民間企業11社が共同出資した発電所を神通川上流の岐阜県高山市の見座・葛山の2ヶ所に建設し運用を開始しました。(現在は4社の出資)年間300,000MWhを発電し、出資会社における消費電力を賄うだけでなく、地域の発展にも貢献しています。

富山工場 見座発電所

コミュニティへの参画および コミュニティの発展



立地する国・地域社会に対し適切に情報を開示し、
コミュニケーションを進め、相互理解を深めます。

- 地域社会の一員として、率直なコミュニケーションを図ります。
- 文化・宗教・歴史・慣習など、地域の特性を理解、尊重します。
- 地域社会に的確に情報を提供し、ご理解いただくよう努めます。
- 周辺地域の安全や環境に影響を与える可能性がある事態が発生した場合は、速やかに適切なルートで情報を発信します。
- ボランティア、文化活動、レクリエーションなど、様々な活動に地域社会の一員として参加します。



長野県SDGs推進企業登録制度



塩尻工場では各CSR活動とSDGsの目標をひも付けること(見える化)、社内外へのPR、さらには企業価値向上に期待し、この度「長野県SDGs推進企業登録制度※1」に登録しました。

2020年2月10日に行われた交付式では第3期登録企業等(70団体)に阿部長野県知事より登録証が交付されました。塩尻工場では従業員への周知・PR、SDGsの目標に対して1つでも多くの課題を解決できるような活動を行うとともに、長野県や登録企業との連携を図りながら、一人ひとりがSDGsを身近に感じられる活動をさらに推進していきます。

(※1)長野県は、企業活動等を通して、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に意欲的に取り組む県内企業等を登録・PRする制度を全国で初めて2019年4月26日に創設しています。

レクリエーション

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、「歩け歩け」を企画しました。大勢の従業員と家族に参加していただき日頃の運動不足解消、普段あまり顔を合わせない方とも交流する機会になっています。



横浜工場 歩け歩け企画

工場見学会

当社では、お客様、地域の方々、学校関係者、行政関係者等様々な方に製品、安全・環境への取り組みを知っていただくために、工場見学会を随時実施しています。

●工場見学実績 2020年来場者数 ●塩尻工場60名

出前授業

塩尻工場では、生徒の将来を考えるきっかけ作りとしてキャリア教育を実施しています。従業員が講師となり小中学校で開催し、当社の事業紹介、働くことの楽しさ、やりがいを生徒の皆さんにお伝えしています。今後も出前授業の継続的実施により、キャリア教育内容の充実、生徒のサイエンス領域への関心を高める活動に取り組んでまいります。



塩尻工場 出前授業

●出前授業実績
2020年9月 ●長野県塩尻市立塩尻中学校2年生60名

SDGsの取り組み

2019年にSDGsへの本格的取り組みを開始し、工場間をオンラインで繋いだ集合教育を実施しました。

塩尻工場は長野県SDGs推進企業への登録など出来るところから着々とその歩みを進めています。

富山工場は2020年富山市が推進する【SDGs未来都市とやま】に賛同し、サポーター登録しました。

横浜工場はワーキンググループの立ち上げや独自のSDGsロゴを作成し、横浜市Y-SDGsの登録準備を進めています。

今後は社員証へのロゴ掲出などによる従業員一人ひとりへの意識付けや活動への参画を促し、取り組みをさらに推進してまいります。

アルミ缶リサイクル活動

当社では2001年より全従業員がアルミ缶リサイクル活動に参加しています。

工場内で購入したアルミ缶だけではなく、各家庭から出た使用済みアルミ缶の一部を工場に持ち込んで回収しています。回収したアルミ缶の収益金の一部は、地域の小中学校や社会福祉事業団へ寄付され、社会貢献活動として定着しています。



塩尻工場 サッカーボール寄付の様子



富山工場 収益金の寄付の様子

- 2020年寄付実績
- 塩尻工場 ●足拭きマット2枚・サッカーボール15球・ボール用空気入れ2本(44,873円相当)
- 富山工場 ●教材購入費として(24,450円)
- 横浜工場 ●公益財団法人 神奈川新聞厚生文化事業団寄付(41,340円)

プラスチックリサイクル活動

ペットボトルのキャップをはじめとしたプラスチック類の回収活動を行っています。回収されたプラスチック類は、形状別に分別し専門業者に買い取っていただき、その売却益は買取業者を経由して日本赤十字社の活動に役立てられています。

また、プラスチックごみをリサイクルすることにより廃棄焼却時に発生するCO₂の削減にも役立っています。

- 2020年実績
- 富山工場 ●日本赤十字社富山県支部へ 廃プラ売却益を全額寄付(111,956円)

美化活動

工場周辺の道路や緑地帯の清掃活動を行っています。また、「工場ショールーム化」のキャッチフレーズのもと、自然環境との調和、地域の景観に溶け込んだ美しい工場を目指し、場内の植樹や緑化管理・荒地整備など、地域の方に親んでもらえる工場となるための取り組みを推進しています。



横浜工場 美化活動 除草

ストレスチェック制度

2015年12月1日から、労働安全衛生法の一部を改正する法律により、ストレスチェック制度が施行されました。

- 1 働く人がストレスによって心の健康を損ねることを未然に防止する
- 2 働く人が自分自身のストレスに気づいて対処する
- 3 働きやすい職場の実現

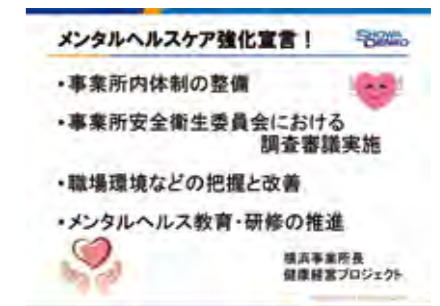
以上3項目が大きな目的です。

当社では、定期健康診断と併せて簡単な質問に対して回答するストレスチェックを実施しています。今後も働く人の心の健康を守る取り組みを実施していきます。

健康増進の取り組み

横浜工場は、横浜市が推進する横浜健康経営認証制度2019においてクラスAAを、そしてこの度、横浜健康経営認証2020で最高評価であるクラスAAAの認証を受けました。

これはクラスAA取得後、横浜工場内に健康経営プロジェクトを発足し、従業員の健康意識や行動の質向上を目指し、勉強会やアンケートによる啓発活動、エクササイズやウォーキングなどの参加型イベントを継続してきた成果です。今回のクラスAAA取得にとどまることなく、横浜工場は、今後も「社員がいきいきと働く横浜」を想い、健康増進への取り組みを継続していきます。



横浜工場 メンタルヘルスクエ強化宣言

2021年CSR行動計画

◎:当初計画より大きな効果あり ○:有効な効果が得られた/継続的に実施
 △:計画していた結果を得られなかった/見直しが必要 —:非該当

	2020年計画	2020年実績	評価	2021年計画
人権・企業倫理・コンプライアンス	人権啓発活動を着実に推進する	ケーススタディを用いたグループ教育	○	人権啓発運動の継続
	コンプライアンスと企業倫理を定着させる	私たちの行動規範と実践の手引きの読み合わせ 集合学習の教材を用いてグループ内でワークショップ	○	私たちの行動規範を活用してグループワークの継続・充実
RC体制	リスクの棚卸を継続する	リスク管理表・評価表の見直し実施	◎	リスク管理の継続
	クライシス対応の強化	防災訓練、事象別対応訓練の実施。マスコミ対応訓練の実施	○	クライシス対応強化の継続
	BCP(事業継続計画)策定	重要設備の耐震診断・耐震化工事の実施	◎	BCPからBCM(事業継続マネジメント)への移行
	マネジメントシステム(RC/QMS/EMS/OHSMS)の改訂・更新への効率的な運用	3工場の共通マニュアル統合運用開始 EMS、QMS、OHSMS	○	更新審査に向けた適切な対応
	各種教育体制の充実	階層別教育を実施	○	教育内容及び体制の充実
	RC監査体制の充実・RC実績把握のスピードと信頼性向上	各課実績検討会での報告実施	○	スピードと信頼性の向上
労働慣行	多様性の推進に向けた取り組みを実施する	手話勉強会、障がい者雇用の促進	○	多様性の推進継続(ダイバーシティ教育)
公正な事業慣行	CSR調達対象範囲を拡大する	CS調査の継続	○	CS調査の継続
環境・安全	化学物質に関する教育・管理体制の充実	実施内容のルール化	○	化学物質に関する法令、安全教育の充実
	国内法規制におけるリスクアセスメントの実施	安全コンサルタントによるパトロール実施 化学物質リスクアセスメント教育実施	◎	安衛法対象物質および取扱作業におけるリスクアセスメントの実施
	海外法規制への適切な対応	海外向けSDS作成 化審法教育の受講	○	海外法規制への適切な対応
労働安全	安全に強い職場と人づくり	安全大会、安全帯教育の実施 危険体感設備の活用	○	危ない設備、危ない作業の撲滅教育・訓練による安全態度向上
	安全管理レベルの向上	EMS、QMS、OHSMS審査受審	○	労働安全衛生マネジメントシステムの規格認定および維持・更新審査結果を反映したルールの見直し
設備安全	再発事故防止	災害の水平展開によるリスク抽出と対策実施 協力企業特別措置実施基準作成	○	「創る安全」活動の完全定着
	自主保安	保安監督者の増員ができていない	△	設備安定化、保安監督者増員
労働衛生	衛生管理体制の強化(関係会社・協力企業含む)	各種教育、職場安全衛生会議の実施	○	管理体制の強化、洗身洗顔設備の設置・整備
	作業環境・作業方法の改善	熱中症対策の充実(暑さ対策、休憩所の増設)、作業別のパトロール実施による指摘と改善	○	作業環境・作業方法の改善
	快適な職場の形成	室内完全分煙化継続 就業時間内禁煙実施	◎	転倒・つまずき災害撲滅 分煙化継続
健康管理	昭和電工グループいきいき健康づくりプランの推進	腰痛予防運動・栄養教育等実施	○	昭和電工グループいきいき健康づくりプランの継続
	健康管理の強化	健康診断受診率100% ストレスチェック制度実施継続	○	健康管理の強化、ストレスチェックの適切な実施と活用 健康経営を目指した活動
産業廃棄物の減量化、再資源化の促進	産業廃棄物の減量化	埋立廃棄物をリサイクルへの転換実施 ばいじんリサイクル化 工程内のモレ・コボレ防止対策による廃棄物削減	◎	ゼロエミッション継続
	再資源化の促進	アルミ缶リサイクル活動継続 古紙回収置場の移設	○	再資源化の具体化 プラリサイクルの推進
水資源リスク対応	水資源リスク低減	地下水の水質調査実施	○	水資源の定期監視



立ち止まらず、未来へ。 持続可能な社会実現のために。

私たちにとってCSRの実践は、
 ステークホルダーまた地域の方々との信頼関係構築に繋がる大切な使命です。
 今後もいかなる環境下にあってもサステナブルな社会づくりへ貢献できる
 柔軟な体制づくりに努め、安定的に事業を継続することで社会的課題へ対応し、
 社会の健全な発展・進化に貢献していきます。